

校友画家・檜原和子さんの受賞作「AUTOMNE」生田10号館に

日高理事長が感謝状を贈呈

国際現代美術協会会員の檜原和子さん(昭41法)が第28回 i・m・a展(2002年)文部科学大臣奨励賞受賞作「AUTOMNE」(100号)を寄贈していただき、その除幕式が3月6日、生田キャンパスで行われた。檜原さんと日高義博理事長・学長が除幕を行った後、感謝状が贈呈された＝写真。

10号館4階に展示された作品を前に檜原さんは「母校に飾っていただき感謝しています。パリの教会で見た『朝もや』の景色をモチーフにしました。『新しく始まる』ことの素晴らしさを多くの学生に感じ取ってもらい、社会に羽ばたいていっていただきたいですね」と話した。



高大連携

教員、学生の交流で活性化

協議会開催で意見交換

本学では13の高校と高大連携の協定を結び、相互の教育内容の理解を深め、教育の活性化を図っている。

2月2日、「“指示待ち世代”の学習動機付け」をメインテーマに高大連携協議会が生田キャンパスで開かれた。

教育政策論が専門の嶺井正也経営学部教授＝写真<上>＝が基調講演で現代の学生像を語り、県立麻生高校の塚野ミイ子校長と県立神奈川総合高校の諏訪部泰樹校長が高校の教育現場からの事例報告を行った後、活発な意見交換が展開された＝写真<下>＝。



成瀬高で英語学習支援プログラム

英語能力を伸ばしたい高校生に向けた学習支援プログラム「現役大学生が語る英語のイロハ」が1月24日、協定校の都立成瀬高校で初めて行われた。留学体験のある小野拓也さん(文3)、北島伸哉さん(文2)、井本隆太さん(同)が英語を楽しく学ぶコツや留学体験から得たものなどをミニ講演と座談会で高校生に伝えた＝写真。



日高学長と「Hi・Yo・Coの会」が懇談

付属高校との連携強化プログラムや高大連携協定校の見学会などに協力している、付属高校出身者の会「Hi・Yo・Coの会」メンバーが2月27日、神田キャンパスで日高義博学長と懇談し、日ごろの活動報告を行った＝写真。

玉名高生徒が生田キャンパス見学

2月15日、専修大学玉名高校(熊本県玉名市・久和基利校長)の2年生12人が生田キャンパスを訪れ、先輩たちからキャンパスライフの様子を身近に聞いた＝写真。

〈校友新社長紹介〉

秋山 真咲氏(あきやま・まさき=平元経済)ソフトプレーン(株)の社長に3月26日付で就任した。

〈校友短信〉

佐野 心氏(さの・こころ=平2商)連覇を目指す常葉学園菊川高校(静岡県代表)の硬式野球部部長として、第80回選抜高校野球大会に出場。

税理士試験合格者の祝賀会

税理士試験合格者の祝賀会が1月26日、生田キャンパスで開かれた。写真。商学部日本税理士会連合会寄附講座(コーディネーター柳裕治商学部教授)と専修大学会計人会の共催。

川村晃正商学部長、鳥居勇専大会計人会副会長(昭58商)らの来賓が、合格者7人(全科目合格者3人、科目合格4人)の努力を称え、今後の活躍を祈念した。



「アンドロメダの涙、その真実」森正夫准教授が研究発表

3月24日から4日間開催された日本天文学会・春季年会の記者会見が23日、千代田区の学術総合センターで行われ、森正夫法学部准教授が「アンドロメダの涙、その真実」と題した研究発表を行った＝写真。



訃報

西川 正雄氏(にしかわ・まさお)元文学部教授

1月28日、死去、74歳。密葬は近親者で行われた。

大学院文学研究科長などを歴任。2004年3月定年退職。

＜専大校友を訪ねて＞



バスケット女子Wリーグ初制覇・全日本総合選手権(オールジャパン)3連覇の富士通レッドウェーブ主将

三谷 藍さん(平13経営)

「あきらめない」—仲間を信じて

JOMOとシャンソン化粧品品の「2強時代」が長く続いた女子バスケット界に新たな歴史を刻んだ「富士通レッドウェーブ」。そのセンターフォワード、主将。昨年6月、日本代表としてアジア選手権・銅メダル獲得にも貢献した。

入部当時は2部リーグだったが、目標を「日本一」と掲げた李玉慈・前監督の、基本からたたきこむ厳しい指導でチームは生まれ変わった。「体力もスキルもチームで最低レベルでしたが、教えられたことは素直に吸収できました。市立船橋高、専大ともに『型にはめない指導』をしていただいたお陰です」という。

要求される高いレベルについていけず、いらだつ日々もあったが、「自分で考えるバスケット」を理解できたときから、潜在能力を発揮し、注目を集めるように。「182センチの長身だが、動きが機敏で3ポイントシュートとドライブが得意。中からも外からも攻められるのが持ち味」と児玉茂・専大女子バスケット部監督は評する。

トーナメント戦のオールジャパンでは主将として、目の前の試合に集中することでプレッシャーを感じることなくモチベーションを保った。Wリーグファイナルの相手は昨年、2連勝のあと3連敗で初優勝を逃した宿敵JOMO。今年も接戦となったが、第5戦で19点差をつけ、リベンジを果たした。5戦すべて40分間フル出場。

「メンバー交代が少ないので体力的にはきついです。でも自主性に任せて、自由にプレーさせてくれている中川文一監督のお陰でピンチには強い。考えていることを『ココロ』で感じ、プレーすることができます。仲間を信じて、決してあきらめない気持ちが、結果に結びつきました」と激闘を振り返った。

北京五輪出場をかけた世界最終予選の代表選考最終合宿は4月。「高い目標を掲げなければ、その手前で終わってしまう」ことを知ったいま、代表選出、そして「北京」へと目標を定めている。

[当月号の記事一覧]